



写真① 現像した作品

特別展「生誕120年 安井仲治一僕の好きな写真」展関連 こどものイベント特別編

「野口里佳さんによるワークショップ～野口さんと一緒に写真が写る不思議を体験しよう！～」

- 開催日時：2024年1月21日(日)10:15～16:30
- 参加者：こども7名、大人10名
- 対象：小学3年生～中学生
- 場所：アトリエ2と美術館敷地内各所

■概要

写真家の野口里佳さんと一緒に空き箱でピンホールカメラをつくり、撮影から現像までを体験しました。

■1 学芸員と野口さんによるレクチャー

展覧会担当の小林学芸員が「展示している写真家の安井仲治(やすい なかじ)さんは120年前に生まれた人で、いろいろな写真を撮っている。若い人達にも写真の魅力を知ってもらいたいので、そのきっかけとして今回野口さんにワークショップをお願いした」とお話しました。

野口さんご自身がピンホールカメラで撮った作品をいくつか画像で見せた後、さっそくピンホールカメラづくりのポイントや流れを説明しました。



写真②レクチャーの様子

◇こどもの感想

・ピンホールカメラを作るのもとるのも楽しかった。カメラの中が見えないのできれいな写真をとる事がむずかしかった。ていねいに教えてくれたのでまた行きたいです。(小3)

◇保護者の感想

・場所、シャッター時間、光の強さなど、無限にパターンがあって子どもといろいろ考えながら楽しむことができました。

■2 制作(午前)

まずは大きさや深さが違う箱の中からカメラの本体となる箱を選びます。次にアルミ缶を3cm角に切ったものに小さな穴をあけたり、シャッターをつくったり、シャッターを付ける箱の部分に穴をあけて身と蓋の中を黒い絵の具でぬったり、講師の野口さんのチェックを受けながら慎重で丁寧な作業を夢中で進めていきます。保護者やボランティアの手も借りて、午前中には全員がカメラを作成することができました。



写真③ 制作の様子

■3 撮影と現像(午後)

暗室で、自分のカメラに印画紙をセットし、野口さんからカメラの深さと今日の天気に合わせてシャッターをあけておく時間の目安を教してもらい外へ撮影に出発!! カメラを固定している人もいれば、自分で動かないようにじっと持っている人、また保護者にカメラを持ってもらい自分を映す人など撮影の仕方さまざまでした。撮影の後は、いよいよ暗室で現像です。現像液、停止液、定着液の順に印画紙を浸していき、最後に水で流すと写真とご対面です! 上手く撮れたかな?!

他の参加者の写真も気になって、「あっ、この場所を撮ったんだね」「きれいに映ってる!」など、互いに見せ合いながら和気あいあいと作品の話がはずみました。



写真④ 撮影の様子

■4 ふりかえり

多い人は4回の撮影に挑戦しました。最後にお気に入りのネガを1枚選んで焼き付けて仕上げていきました。全員が完成したら、野口さんと参加者みんなで作品を見せ合いながら感想を発表しました。「カメラをつくるのが楽しかった!」「撮影が楽しかった」「最初は簡単だと思っていた。ピンホールカメラで撮影するのは難しかった」など、話してくれました。なかなか上手く撮れず、3回目に成功した人には、野口さんから「最後まで頑張ってたね!」という言葉ももらい、嬉しそうなお様子でした。みんなの感想から、大変だったけど工夫しながら自分の写真を仕上げるのができて満足していることが伝わってきました。



写真⑤ ふりかえり風景

□展覧会担当からのコメント

安井仲治にとって、ネガの現像やプリントへの焼き付けなどを行う暗室作業はカメラでの撮影と同じくらい大切なプロセスだったはず。現代の写真はデジタルが当たり前で暗室作業は不要になってしまいましたが、だからこそ子どもたちと一緒に写真の原理を知ることのできるワークショップはとても貴重な機会でした。しかも講師は今をときめく写真家の野口里佳さん! 参加した皆さんにとって何年たっても忘れられたい大切な一日になったのではないかと思います。野口さんとそのご家族、そして参加して下さった皆様にお礼申し上げます。(小林学芸員)